製 品 安 全 デ ー タ シ ー ト

1，化学物質等及び会社情報

製品名　（特級）　フェノールフタレイン　Phenolphthalein
（一級）　フェノールフタレイン
整理番号　63035
作成日　2001 年　5 月　1 日
改訂日　2013 年　6 月　10 日

会社名　純正化学株式会社
本社住所　〒103-0023　東京都中央区日本橋本町 4-4-16
●連絡先及び緊急連絡先(MSDS 作成担当)
担当部門　品質保証部
担当住所　〒343-0844 埼玉県越谷市大間野町1－6
電話番号　048-986-6161　FAX 番号 048-989-2787
E-mail: shiyaku-t@junsei.co.jp
http://www.junsei.co.jp

用途と使用上の注意： 本製品は試薬ですので、試験研究用以外には使用しないで下さい。

2，危険有害性の要約

【GHS 分類】 NITE 分類 （ ID= 2-074 ）

物理化学的危険性
自然発火性固体　:区分外
健康に対する有害性
生殖細胞変異原性　:区分 2
発がん性　:区分 2
生殖毒性　:区分 1B
特定標的臓器／全身毒性(反復暴露)　:区分 1(腸)
(注)危険有害性の分類で、「分類対象外」及び「分類出来ない」は項目を省いた。

【GHS ラベル要素】

【GHS 絵表示】

【注意喚起語】

危険

【危険有害性情報】

遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれの疑い
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(腸)の障害

【注意書】

【安全対策】

・使用前に取扱説明書を入手すること。
・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
・粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
・取扱い後は手をよく洗うこと。
・屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
・保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

【応急措置】

・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の手当／診断を受けること。
・気分が悪いときは，医師の診断／手当てを受けること。

【保管】

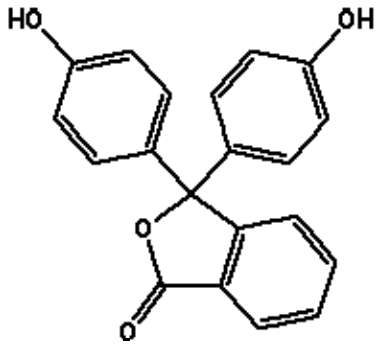
・施錠して保管すること。

【廃棄】

・中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

3，組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：単一製品
化学名：フェノールフタレイン
別名：3,3-ビス(4-ヒドロキシフェニル)イソベンゾフラン-1(3H)-オン、
3,3-ビス(4-ヒドロキシフェニル)-1,3-ジヒドロイソベンゾフラン-1-オン
化学式：$C_{20}H_{14}O_4$
CAS No：77-09-8
EINECS No：201-004-7
含有量：（特級）98.0%以上
（一級）98.0%以上
化審法：9-1152
安衛法：公表
構造式



4，応急措置

○ 吸入した場合：新鮮な空気と安静。必要な場合には人工呼吸。医師に連絡。
○ 皮膚に付着した場合：汚染された衣服を脱がせ、水と石けんで皮膚を洗浄。医師に連絡。
○ 眼に入った場合：先ず数分間、多量の水で洗い流す（できればコンタクトレンズをはずす）。医師に連れて行く。

○ 飲み込んだ場合：意識あるなら、口をすすぐ。意識なければ、何も与えない。医師に連絡。

5，火災時の措置

消火剤

水スプレー、粉末消火薬剤、AFFF（水性膜泡消火薬剤）、泡消火薬剤、二酸化炭素

使ってはならない消火剤

データなし

消火方法

周辺火災の場合、出来る限り速やかに容器を火災現場より遠ざける。移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。

着火した場合は風下の人を退避させ火元への燃料源を断ち、風上より消火剤を使用して消火する。消火に当たっては保護具を着用する。

特有の危険有害性：データなし

特有の消火方法：データなし

消火を行う者の保護のために着用する保護具：防火保護服、手袋に加え、空気呼吸器等を着用する。

6，漏出時の措置

人体に対する注意事項

暴露しないように十分な換気のもとで、保護具着用して行う。

保護具及び緊急時措置

「8．暴露防止及び保護措置」における、保護具着用

環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

回収、中和

漏出物をふた付の容器に集めて安全な場所に移す。

7，取扱い及び保管上の注意

取扱い

－蒸気、ミスト、ガスが、皮膚に触れたり、吸入することがないように、局所排気したり、保護具を着用する。

－作業場を換気する。

－作業中は飲食、喫煙をしない。

保管

－火気厳禁

－密栓して換気のよい冷暗所に保管する。

8，暴露防止及び保護措置

通気：換気装置を用いて、ミスト、ほこり、蒸気濃度を低く保つ。

管理濃度（労働安全衛生法）：設定されていない

許容濃度

日本産業衛生学会(2012 年度)：設定されていない

ACGIH(2010 年)：設定されていない

設備対策

局所排気装置、安全シャワー、洗眼器

保護具

－防塵マスク、送気マスク、空気呼吸器等

－不浸透性保護手袋
－安全ゴーグル
－不浸透性保護衣

9，物理的及び化学的性質

外観：白色の結晶性粉末
臭い：無臭
pH: データなし
融点：258～262℃
沸点：データなし
引火点：データなし
爆発範囲の上限・下限：データなし
蒸気圧：データなし
蒸気密度：データなし
比重/密度：1.277g/cm^3（32℃）
溶解度：400mg/L（水，室温）
エタノールにやや溶けやすく、ジエチルエーテルに溶けにくい。
n-オクタノール／水分配係数：log Pow = 2.41
自然発火温度：データなし
分解温度：データなし

10，安定性及び反応性

反応性と安定性:常温常圧で安定である。加熱すると分解し、刺激性のガスやフュームを生じる。
避けるべき条件（静電放電、衝撃、振動など）：裸火、加熱
混触不可物質：データなし
危険な分解生成物：一酸化炭素、二酸化炭素
危険な重合反応：データなし

11，有害性情報

急性毒性　経口
データ不足
急性毒性　経皮
データなし
急性毒性　吸入：ガス
GHS の定義における固体である。
急性毒性　吸入：蒸気
データなし
急性毒性　吸入：粉塵ミスト
データなし
皮膚腐食性／刺激性
データなし
眼に対する重篤な損傷性／刺激性
データなし
呼吸器感作性
データなし

皮膚感作性
データ不足
生殖細胞変異原性
マウスの赤血球を用いた小核試験の結果が陽性であること(NTP DB)から、区分 2 とした。
発がん性
IARC vol.76(2000)でグループ 2B、NTP DB で R と評価されているので、区分 2 とした。
生殖毒性
「マウスを用いた混餌投与試験において、1,000mg/kg 以上の濃度で、第 2 子から第 5 子まで出産した雌雄組数は有意に低下し、平均一腹産児数も 24%減少した。F0 世代の雄では精巣上体の精子数が著しく減少し精細管変性する」という記述(IARC vol.76(2000))があることから、区分 1B とした。
特定標的臓器／全身毒性(単回暴露)
データ不足
特定標的臓器／全身毒性(反復暴露)
「ヒトにおいて、主な標的臓器が腸であり、臨床症状は慢性潰瘍性大腸炎と類似している」(IARC vol.76(2000))という記述があることから、区分 1(腸)とした。
吸引性呼吸器有害性
データなし

12, 環境影響情報
－生態毒性
水性環境急性有害性
データなし
水性環境慢性有害性
データなし

(化審法既存化学物質の安全性点検)(未点検)
－分解性:データなし
－蓄積性:データなし

13, 廃棄上の注意
中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

14, 輸送上の注意
運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

国連番号:非該当
品名:非該当
国連分類:非該当
容器等級:非該当
海洋汚染物質:非該当
緊急時応急措置指針番号:非該当

15, 適用法令

消防法:非該当
毒劇法:非該当
旧PRTR法:非該当(　)(平成 12 年 3 月 30 日施行)
新PRTR法:2-74(別名:フェノールフタレイン)(平成 21 年 10 月 1 日施行)
労働安全衛生法:施行令第 18 条の 2 通知対象有害物別表第九:非該当

16, その他の情報

参考文献

－メルクインデックス15版 7356 (Phenolphthalein)
－STNインターナショナル RTECS ファイル AQUIRE ファイル
－RTECS No. SM8380000 (Phenolphthalein)
－危険物船舶運送及び貯蔵規則(十四訂版)国土交通省海事局検査測度課(海文堂)
－改訂第3版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)
－NITE GHS 分類データ (ID= 2-074)
－NITE GHS 分類マニュアル(H22.3 版)
－製品安全データシートの作成指針(改訂第2版)((社)日本化学工業協会)
－化学物質総合情報提供システム(CHRIP)(NITE) http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html
－Hazardous Substances Data Bank (HSDB)

コメント

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。また、記載物性値は文献値であり、規格値ではありません。
全ての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようにお願いします。また、特別な取扱いをする場合には、新たに用途, 用法に適した安全対策を実施の上で御使用下さい。